

- 平成24年度補正予算(平成25年2月26日成立)において、廃炉に関する技術基盤を確立するため、①遠隔操作機器・装置の開発実証施設(モックアップ試験施設)、②放射性物質分析・研究施設の整備費として、850億円を(独)日本原子力研究開発機構(JAEA)へ出資。
- モックアップ試験施設については、平成25年5月に、立地地点を楢葉町楢葉南工業団地内に決定。平成27年度の運用開始を目指し、本年9月から建設工事に着工。同月に行われた起工式には、高木経済産業副大臣 他が出席。正式名称は「楢葉遠隔技術開発センター」。
- 分析・研究施設については、平成26年6月に、立地候補地を福島第一原発の隣接地に決定。着工に向けて建設計画を策定中。

## モックアップ試験施設

### 試験棟

#### 遠隔操作機器 実証試験エリア

原子炉建屋内を模擬した障害物等を設置し、調査、除染等に必要な遠隔操作ロボットの実証試験や運転員の訓練等を実施。

#### PCV下部補修 実証試験エリア

格納容器下部の実寸大模型を設置し、漏えい箇所を調査・補修するロボットの実証試験や運転員の訓練等を実施。

### 研究管理棟

## 楢葉遠隔技術開発センター 完成予想図



### 安全祈願祭・起工式 (9月26日)

松浦JAEA理事長、高木経産省副大臣、山本文科省政務官、浜田復興庁副大臣、村田福島県副知事、松本楢葉町長 他が出席

